

神戸市第二次救急病院協議会 会員各位
神戸市民間病院協会 会員各位

神戸市保健福祉局長

重度障害児者医療福祉コーディネート事業
アンケート調査への協力について（ご依頼）

平素は、当市の障害福祉行政に格段のご協力をいただき、厚くお礼を申し上げます。

さて、神戸市では、重度の肢体不自由と知的障害を併せもち、出生時より多種多様な基礎疾患を有する重症心身障害児者（重症児者）が安全、安心に地域で過ごしていくことを目標に、「重度障害児者の医療福祉コーディネート事業」の実施に向けた検討を進めているところです。

神戸市には現在約800人の重症児者が在宅で過ごされております。

医療の進歩により成人し壮年期から老年期まで生存する方も増え、また医療的ケアを要する方も増加しています。重症児者の体調不良時に、小児期からの長い経過の情報を持たない医療機関で患者を受け入れた場合、医療事故につながるリスクや家族とのトラブルになる恐れがあることから、緊急の入院受け入れ先の確保が困難な状況があります。

また、呼吸器感染症を契機に、重度化が進み、気管切開などの医療ケアが必要となり、在宅生活へ戻るまでに長期間を要する場合があることも、急性期の入院受け入れ病院の確保を困難にしていると考えられます

当事業では、このような重症児者の救急受け入れが困難な現状の改善を検討しています。

そこで、今後、当事業を円滑に推進するにあたり、下記のとおり、アンケート調査を行いたいと考えますので、ご多忙のところ恐縮ですが、ご協力をよろしくお願いいたします。

記

- 1 アンケート調査内容 別紙1のとおり
- 2 回答期限 平成28年10月29日（金）までにお願ひします。
- 3 回答方法 FAXまたはEメールにて下記までご回答ください。
Eメールでご回答いただける場合は、先にその旨メールをご送付ください。折り返しデータをお送りいたします。
*送付先 FAX078-322- 6066

問い合わせ先：重度障害児者医療福祉コーディネート事業について

神戸市保健福祉局障害者支援課 中谷

電話 078-322-5231

入院受け入れ先アンケート調査の内容について

ここにこハウス医療福祉センター 河崎

電話 078-743-2525

～10月29日（金）までにご回答ください～

重症心身障害児者医療福祉コーディネート事業

入院受け入れ対応アンケート調査

病院名 ()
 記載医師名 成人 診療科 () 医師名 ()
 小児 診療科 () 医師名 ()

受け入れ可能な場合は○、不可能な場合は×、その時の状況による場合は△をご記載下さい。特記することがございましたら下のフリー記載欄にご記入ください。

小児は何歳まで対応可能か、年齢もお書きください。

	成人	小児
急性期の受け入れについて		
気管切開をしている患者の急性期入院は可能ですか？		(～ 歳)
気管内挿管になる可能性がある患者の急性期入院は可能ですか？		(～ 歳)
人工呼吸器（IPPV）を使用中患者の急性期入院は可能ですか？		(～ 歳)
人工呼吸器（NIPPV）を使用中患者の急性期入院は可能ですか？		(～ 歳)
酸素投与を必要とする患者の急性期入院は可能ですか？		(～ 歳)
胃瘻栄養の患者の急性期入院は可能ですか？		(～ 歳)
経鼻胃管の患者の急性期入院は可能ですか？		(～ 歳)
人工肛門の患者の急性期入院は可能ですか？		(～ 歳)
中心静脈栄養患者の急性期入院は可能ですか？		(～ 歳)
腹膜透析の患者の急性期入院は可能ですか？		(～ 歳)
慢性期（在宅移行）の受け入れについて		
気管切開をしている患者の慢性期入院は可能ですか？		(～ 歳)
人工呼吸器（IPPV）を使用中患者の慢性期入院は可能ですか？		(～ 歳)
人工呼吸器（NIPPV）を使用中患者の慢性期入院は可能ですか？		(～ 歳)
酸素投与を必要とする患者の慢性期入院は可能ですか？		(～ 歳)
胃瘻栄養の患者の慢性期入院は可能ですか？		(～ 歳)
経鼻胃管の患者の慢性期入院は可能ですか？		(～ 歳)
人工肛門の患者の慢性期入院は可能ですか？		(～ 歳)
中心静脈栄養患者の慢性期入院は可能ですか？		(～ 歳)
腹膜透析の患者の慢性期入院は可能ですか？		(～ 歳)

(参考) 今後、神戸市で推進を予定している施策について

1. 平成28年10月1日より社会福祉法人芳友(にこにこハウス医療福祉センター)に重度障害児者医療福祉コーディネート事業を委託しており、事業実施にあたり以下の情報把握を行います。

(1)急性期入院受け入れ病院のリスト化

夜間や休日に限らず昼間の入院依頼であっても、患者の重症度により受け入れ可能な病院が限られています。あらかじめ、各病院の受け入れ可能な患者像を整理しておくことで、スムーズな受け入れ病院の確保が期待できます。

(2)慢性期入院受け入れ病院のリスト化

入院を契機に重度化がすすみ気管切開や経管栄養、在宅酸素療法などの医療ケアを要し入院が長期化する場合、療養病床を持つ病院や医療型入所施設へ転院することで在宅移行をすすめることが可能です。あらかじめ、慢性期の受け入れ可能な病院をリスト化し整理しておくことでスムーズな転院が可能となり、急性期病院での在院日数の短縮につながる可能性があります。

2. 情報共有方法の整備

重症児者を救急外来で受け入れた場合、現在のADLや必要な医療ケア、内服薬の情報、今後の外科的介入の方針までを短時間で確認するのは難しく、実際にはかなりの時間を要します。そこであらかじめ神戸市内の重症児者の情報登録書を作成し、受診の際に提示できるようにしておきます。災害時の情報共有にも利用できるよう、かかりつけ病院を持つ小児についても情報登録書の作成を行います。